

絶景眺め半島ぐるり



「第26回ツール・ド・のと400」能登半島一周サイバル・サイクル2014「同実行委、北國新聞社主催、石川県自転車競技連盟共催は2日目の14日、輪島市から七尾市能登島までの157・4キロで行われた。出場者598人は、奥能登の秋祭りや豊かな里山里海の景観を満喫しながら駆け抜けた。

輪島―能登島 157・4キロ疾走

輪島市マリンタウンを午 者は、途中でにわか雨に見 空に虹が懸かった景色も 前7時半に出発した出場 舞われたものの、晴れた秋 楽しんだ。出場者は千枚



里山里海の景観を眺めながら疾走する出場者 ―穴水町内



七尾市観光協キャラ とうはくん

ゴールでねぎらい

ゴール地点では、七尾市観光協会のゆるぎやう「とうはくん」写真中央が出場者を出迎えた。能登島の女性ボランティアグループ「すみれ会」による大鍋の豚汁が振る舞われた。出場者は能登島の豚とジャガイモを使った鍋に舌鼓を打って、体を温めた。

田や塩田に目を楽しませたほか、珠洲市の沿道に並んだ秋祭りのキリコや曳山を眺めながら、住民の声援を受けてペダルをこいだ。

この日は、3日間で407・4キロを駆けるチャンピオンコースに444人、1日コースに154人が出場した。最終日の15日は高岡市や小矢部市を通り、内灘



新幹線客に魅力を

JR西チーム出場

JR西日本の社員らでつくるサイクリングチーム「いんぎらっと」はチャンピオンコースと1日コースに計9人が出場した。白山市の白山総合車両所に勤務する倉見敬悟代表(55)は、北陸新幹線金沢開業を前に石川の魅力を再発見しようと出場。倉見代表は「豊かな自然と美しい景観を満喫した。新幹線で来る観光客も石川を楽しんでもらえそう」と話した。

石川の魅力について語るいんぎらっとのメンバー
―穴水町

町の県立自転車競技場に戻る129・3キロのコースで行われる。

陸上自衛隊金沢駐屯地の第14普通科連隊の6人はリタイアした出場者の自転車を回収した。